

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	運動療育はいたち阿倍野教室		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 1日		～ R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	R8年 1月 23日		～ R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い指導員が支援を行っている。	運動面や社会性に関してのプロフェッショナルな指導員や専門職の指導員が丁寧に支援を行っている。 運動メニュー表を作成し、指導員間で共有している。	4月から新たに保育士の指導員が入職されるため、違った方面での療育や関わりなどが出来る範囲が広がる。
2	指導員同士が密に話し合いを行い支援内容を考えたり、意見交換することができている。	自発音から積極的に聞き取りしたり、話しかけるようにしている。 全職員が指導後に今日の振り返りを親御様に行っている。 最後のミーティングで、本日の振り返りをスタッフ間で行っている。	現在も行っているが、空いている時間に委員会の研修を行ったり、新しい運動メニューを考案していく。 実践して注意点や意見などを出し合ってよりよい支援ができるように工夫していく。
3	保護者との距離感が近く、相談しやすい関係性・雰囲気づくりができている。	自発音から積極的に聞き取りしたり、話しかけるようにしている。 全職員が指導後に今日の振り返りを親御様に行っている。 最後のミーティングで、本日の振り返りをスタッフ間で行っている。	現在も意識しているが、本日のよかった点も指導員間で伝えていけるとさらによくなる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが十分確保できず、活動量をしっかりと確保しづらいところ。	予約人数が多いこと、数人で活動することが多くありスペースを十分確保できないことがある。	外での活動や自転車練習なども増やしていきながら、各個人の目標を達成できるように運動メニューを構成したり、組み合わせを考慮していく必要がある。
2	収納スペースがすくないため、視覚情報が多く活動に影響を与えることがある。	施設内の収納場所が少なく、活動スペースに物を配置するしかないため。	収納スペースに布をかけて視覚情報を少なくするように改善中。運動毎に必要なものを、危険な物などは職員スペースに今後も片づけていく。
3	指導員によって社会性や運動面の指導に関して個人差がある。	専門的な指導員が多いため、知識や技術に差はある。 運動療育のため、技術的な指導も必要になる。	施設内研修やマニュアル作成を行い、施設全体の能力を上げる。 空いている時間で意見交換したり、他指導員の指導をみたりする。